

# 大多喜町地震減災マップ

日本列島は古くから繰り返し地震による被害を受けました。最近でも平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震、平成19年の新潟県中越地震などが発生しています。これらの地震による犠牲者の多くが、倒壊した住宅に押し潰されて亡くなる「圧死」でした。このような被害を減らすためには、倒壊した住宅に押しつぶされると想される建物の危険度を示す「地域の危険度マップ」、各地域の震度を示す「揺れやすさマップ」、及び地盤の液状化の危険性を示す「液状化危険度マップ」を作成しました。住民のみなさんが自宅周辺や通勤・通学路などの「揺れ」、「建物被害の危険性」、及び「液状化の危険性」を確認し、地震への備えを行うために「地震減災マップ」をお使い下さい。

平成22年3月：大多喜町 建設課  
電話：0470-82-2111 E-mail：kensetu@town.otaki.lg.jp

## ◆恐ろしい家の倒壊



地震による死亡やケガの原因で最も多いのは、家の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約8割を占めました。



**皆さんの生命・財産を守るためにには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。**

## ◆地震に備えた建物の耐震化 木造建物の耐震性のチェックポイント

### ▶ご自宅の耐震性について確認してみましょう。

- ① 建てたのは昭和56年（1981年）5月以前である。
- ② 過去に浸水、火災、車の突入事故などに見舞われたことがある。
- ③ 壁や基礎にひび割れがある、傾いているのが分かるなど老朽化している。
- ④ 建物の平面の形状や、偏って大きな窓があるなど耐震性に関わる問題がある。

ひとつでも当てはまれば、建築士などに相談してみましょう。本町では、耐震診断費の一部補助を実施しています。補助についての詳細は、町役場までお問い合わせください。

なお、耐震改修費の一部補助については、平成23年度以降創設予定です。

## 地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」は、地震の揺れによる建物被害発生の危険度分布を相対的に示したもので、奥面の「揺れやすさマップ」の揺れによって建物が全壊すると想される割合を「危険度」として表示したものです。古い住宅があると危険度が高くなります。

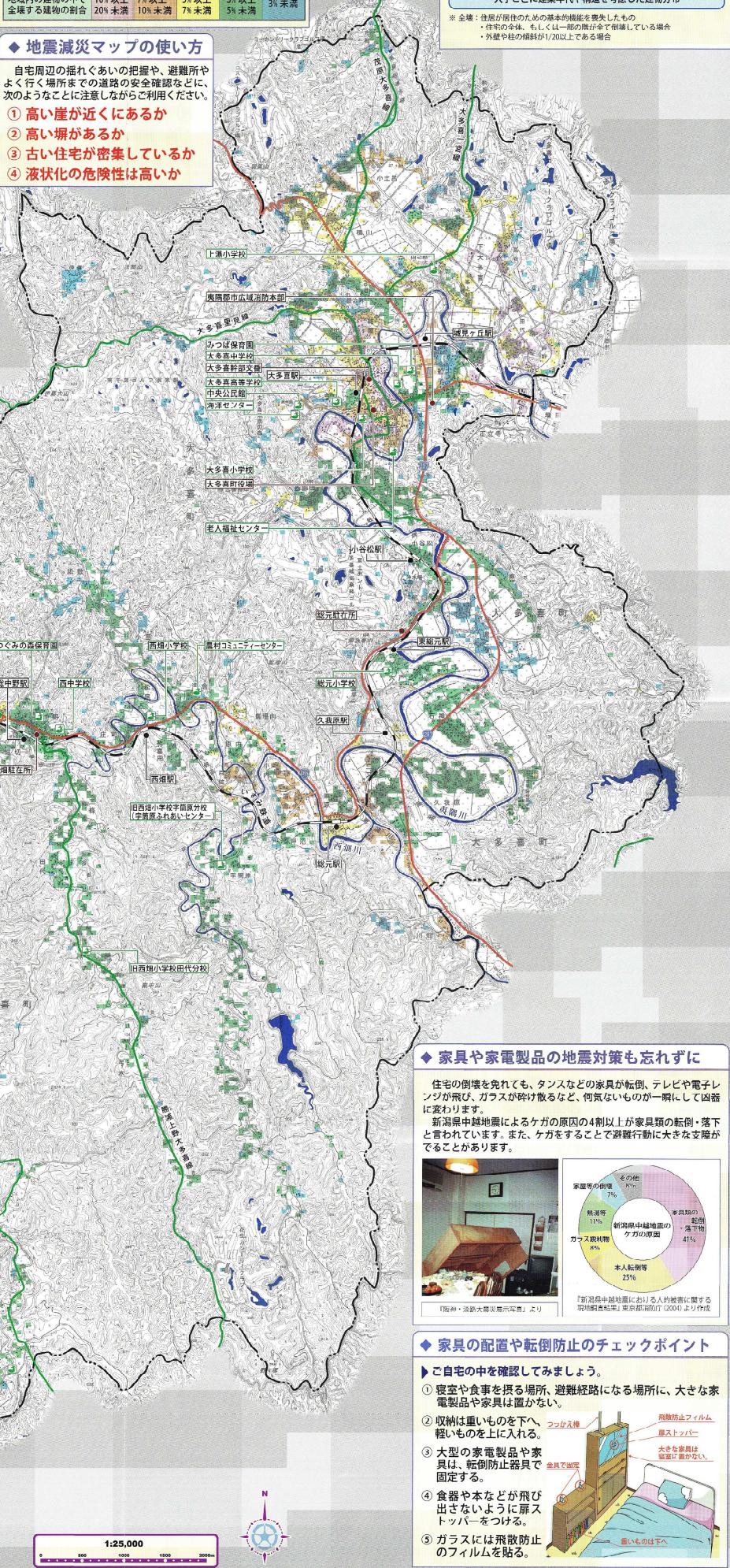
### ◆地域の危険度凡例

危険度	危険度5	危険度4	危険度3	危険度2	危険度1
地域内の建物の中で全壊する建物の割合	10%以上 20%未満	7%以上 10%未満	5%以上 7%未満	3%以上 5%未満	3%未満

### ◆地震減災マップの使い方

自宅周辺の揺れぐあいの把握や、避難所やよく行く場所までの道路の安全確認などに、次のようなことに注意しながらご利用ください。

- ① 高い崖が近くにあるか
- ② 高い堀があるか
- ③ 古い住宅が密集しているか
- ④ 液状化の危険性は高いか



## 凡 例

■	避難場所及び避難所
●	防災関係機関
■	水面
—	鉄道
—	国道
—	県道・主要地方道
—	町境

この地図は、国土総務省のデータを用いて、同地図の3万5千分の1地図を複数枚したものです。（参考地図：ヤマト地図、ヤマト地図）

1:25,000

